



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月12日

上場会社名 株式会社ミダック 上場取引所 東 名
 コード番号 6564 URL <http://www.midac.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 恵子
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長 (氏名) 高田 廣明 TEL 053-488-7173
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	4,243	11.3	1,472	39.9	1,452	44.0	763	47.9
2020年3月期第3四半期	3,812	6.6	1,052	15.8	1,008	11.6	516	12.5

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 763百万円 (47.9%) 2020年3月期第3四半期 516百万円 (12.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	57.73	—
2020年3月期第3四半期	41.86	—

- (注) 1. 2020年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、2021年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 2019年9月14日付で普通株式1株につき普通株式3株の割合で、2020年2月1日付で普通株式1株につき普通株式1.3株の割合で株式分割を行いました。これに伴い、2020年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	13,883	5,267	37.9
2020年3月期	11,919	4,382	36.8

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 5,266百万円 2020年3月期 4,382百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,509	5.7	1,750	17.0	1,715	18.5	932	17.1	70.35

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	13,386,750株	2020年3月期	13,386,750株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	89,310株	2020年3月期	210,110株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	13,233,950株	2020年3月期3Q	12,341,092株

（注）2019年9月14日付で普通株式1株につき普通株式3株の割合で、2020年2月1日付で普通株式1株につき普通株式1.3株の割合で株式分割を行いました。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、景気は急速に後退しました。緊急事態宣言解除後は、段階的な経済活動の再開は見られ、国内においても株高となる等、徐々に景気回復の兆しが見られました。しかし、世界的に新型コロナウイルス感染症の再拡大が見られていることもあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

廃棄物処理業界におきましては、自動車産業等の製造業の生産活動は、依然として力強さに欠けるものの徐々に回復傾向にあります。一方、飲食店等におきましては、休業や営業時間短縮等により、廃棄物受託量は低調に推移しました。

このような状況の下、当社グループは、引き続き収集運搬から最終処分までの廃棄物一貫処理体制を基盤とし、経済活動が停滞するコロナ禍においても、自社が保有する多数の処理施設と許可の優位性を発揮することで、廃棄物の受託量の確保に努めてまいりました。

最終処分場に関しましては、コロナ禍においても最終処分場への需要は依然として高く、廃棄物の受託量拡大及び単価の高い廃棄物の受注に注力しました。

焼却施設等の中間処理施設におきましては、堅調な業種及び取引先への営業活動を強化することにより、廃棄物の受託量は好調に推移しました。

また、新規管理型最終処分場である奥山の杜クリーンセンターにおきましては、2022年4月以降の稼働に向けて工事は着々と進捗しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,243百万円（前年同期比11.3%増）、営業利益は1,472百万円（同39.9%増）、経常利益は1,452百万円（同44.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は763百万円（同47.9%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 廃棄物処分事業

廃棄物処理業、建設業、自治体等から排出される廃棄物の受託量が増加しました。連結子会社であるミダックはまなにおきましては、親会社である株式会社ミダックと連携し、受注強化に努めた結果、搬入量は増加しました。以上の結果、売上高は3,542百万円（同11.9%増）となり、セグメント利益は1,672百万円（同23.8%増）となりました。

② 収集運搬事業

大型工事案件等の受注があったことにより産業廃棄物の受託量は好調に推移しました。一方で、一般廃棄物におきましては、飲食業界を中心に、休業や営業時間短縮等により、廃棄物受託量は低調に推移しました。以上の結果、売上高は569百万円（同7.2%増）となり、セグメント利益は126百万円（同75.3%増）となりました。

③ 仲介管理事業

大型工事案件等によって、協力会社への仲介が好調に推移しました。以上の結果、売上高は131百万円（同15.5%増）となり、セグメント利益は139百万円（同40.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は4,938百万円となり、前連結会計年度末に比べ254百万円増加しました。これは主に、現金及び預金の増加額272百万円等によるものであります。また、固定資産は8,945百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,709百万円増加しました。これは主に、建設仮勘定の増加額1,341百万円、土地の増加額501百万円等によるものであります。

この結果、総資産は、13,883百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,964百万円増加しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は5,967百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,241百万円増加しました。これは主に、その他の流動負債の増加額976百万円等によるものであります。また、固定負債は2,649百万円となり、前連結会計年度末に比べ162百万円減少しました。これは主に、長期借入金の減少額142百万円等によるものであります。

この結果、負債合計は、8,616百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,078百万円増加しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は5,267百万円となり、前連結会計年度末に比べ885百万円増加しました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益763百万円を計上したこと等による利益剰余金の増加額698百万円等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年5月15日に公表しました業績予想から修正しております。詳細につきましては、本日（2021年2月12日）に公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,756,479	4,029,415
受取手形及び売掛金	612,518	603,032
たな卸資産	49,514	51,026
その他	265,773	255,583
貸倒引当金	△719	△876
流動資産合計	4,683,567	4,938,182
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	504,866	485,503
機械装置及び運搬具（純額）	503,432	489,935
最終処分場（純額）	674,489	638,421
土地	1,343,722	1,845,610
建設仮勘定	2,063,941	3,405,623
その他（純額）	38,369	38,223
有形固定資産合計	5,128,822	6,903,317
無形固定資産		
のれん	1,398,231	1,210,412
施設設置権	240,600	210,525
その他	34,238	22,899
無形固定資産合計	1,673,070	1,443,836
投資その他の資産		
その他	437,907	598,638
貸倒引当金	△3,857	—
投資その他の資産合計	434,050	598,638
固定資産合計	7,235,942	8,945,792
資産合計	11,919,510	13,883,974

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	51,599	47,376
短期借入金	3,121,500	3,449,500
1年内償還予定の社債	48,000	38,000
1年内返済予定の長期借入金	547,252	567,228
未払法人税等	364,251	331,160
賞与引当金	74,822	39,605
その他	518,027	1,494,188
流動負債合計	4,725,453	5,967,058
固定負債		
社債	74,000	53,000
長期借入金	2,012,800	1,869,879
最終処分場維持管理引当金	574,499	599,370
資産除去債務	106,319	108,027
その他	44,240	18,963
固定負債合計	2,811,859	2,649,239
負債合計	7,537,312	8,616,298
純資産の部		
株主資本		
資本金	752,971	752,971
資本剰余金	1,385,576	1,499,772
利益剰余金	2,374,550	3,072,618
自己株式	△130,900	△58,965
株主資本合計	4,382,197	5,266,396
新株予約権	—	1,279
純資産合計	4,382,197	5,267,676
負債純資産合計	11,919,510	13,883,974

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	3,812,081	4,243,282
売上原価	1,693,874	1,694,878
売上総利益	2,118,207	2,548,403
販売費及び一般管理費	1,065,434	1,075,720
営業利益	1,052,772	1,472,683
営業外収益		
受取利息	105	102
固定資産売却益	4,311	9,596
不動産賃貸料	9,736	11,353
その他	2,216	7,899
営業外収益合計	16,370	28,950
営業外費用		
支払利息	35,774	40,089
その他	24,607	9,283
営業外費用合計	60,382	49,372
経常利益	1,008,760	1,452,261
税金等調整前四半期純利益	1,008,760	1,452,261
法人税等	492,107	688,310
四半期純利益	516,653	763,951
親会社株主に帰属する四半期純利益	516,653	763,951

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	516,653	763,951
四半期包括利益	516,653	763,951
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	516,653	763,951

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年7月16日開催の取締役会決議に基づき、当社の子会社取締役に対する譲渡制限付株式報酬として、自己株式27,300株を処分いたしました。また、2020年7月29日開催の取締役会決議に基づき、当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）に対する譲渡制限付株式報酬として、自己株式96,410株を処分いたしました。

その結果、単元未満株式の買取りによる増加を含め、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が71,934千円減少し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が58,965千円となっております。また、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が114,196千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が1,499,772千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2019年4月1日 至2019年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	廃棄物処分	収集運搬	仲介管理	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,167,098	531,222	113,760	3,812,081	—	3,812,081
セグメント間の内部売上高又は振替高	144,365	108	122,463	266,937	△266,937	—
計	3,311,464	531,330	236,224	4,079,019	△266,937	3,812,081
セグメント利益	1,350,643	72,017	99,238	1,521,899	△469,127	1,052,772

(注) 1. セグメント利益の調整額△469,127千円は、セグメント間取引消去23,305千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△492,432千円であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自2020年4月1日 至2020年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	廃棄物処分	収集運搬	仲介管理	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,542,614	569,218	131,450	4,243,282	—	4,243,282
セグメント間の内部売上高又は振替高	141,039	108	158,522	299,670	△299,670	—
計	3,683,653	569,326	289,973	4,542,953	△299,670	4,243,282
セグメント利益	1,672,454	126,244	139,271	1,937,970	△465,287	1,472,683

(注) 1. セグメント利益の調整額△465,287千円は、セグメント間取引消去32,226千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△497,514千円であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。